©海事プレス社2024 禁無断転載

Daily Cargo

全7空港で国際線強化

■北海道エアポート24年度計画

北海道エアポートは2024年度事業計画の中で、国際線ネットワークの拡大を目指す方針を改めて示した。新千歳、函館、旭川空港の国際線定期便の増便に加えて、運営する7空港すべてで国際線チャーター便の受け入れを想定。将来の定期便化の可能性を見据えた誘致を行う。ソーシャルメディアなどの活用による海外向け北海道観光地のPRとともに、北海道産品の販売および輸出を促進。大型産業集積への対応を念頭に置いた施策にも取り組む。

北海道エアポートは新千歳、稚内、釧路、函館、旭川、帯広、女満別の7空港を一括運営している。23年11月末には、30年を目標とした「HAP2030ビジョン」を策定。安全・安心と信頼性の高みを追求し、高い品質と効率性を両立させた空港運営を目指す方針を掲げた。7空港バンドリング（複数空港の一括運営）のメリットを具体化するとともに、7空港それぞれの特長を生かして北海道への人流を最大化する目標を示した。大型産業集積への対応を含めて、北海道の玄関口として十分な受け入れ体制を構築する点も強調した。

24年度は、「2030ビジョン」実現に向けた新たなスタートの年と位置づける。7空港一体での航空営業、着陸料などの割引制度、インセンティブを活用したマーケティング戦略を推進。新規就航および早期復便・増便に向けた航空会社への誘致活動や受入環境整備に向けた取り組みを継続して実施する。航空需要の喚起や空港における賑わいの創出、交流人口・関係人口の増大、二次交通の最適化に向けた地域と連携した取り組みを継続。多様な企業・自治体との連携を通じた新たな価値創出を目指す。

安全・安心な空港運営のための滑走路、誘導路、航空灯火などの更新に係る設計および工事を実施。脱炭素化推進計画に基づく各空港のカーボンニュートラル化に向けた各種施策を検討・実施する。航空・空港関連従業員の職場環境改善に向けた各種投資（休憩所、保育所の設置など）も検討・推進する。

24年度の7空港合計の旅客数の目標値（カッコ内は23年度実績）は3039万5000人（2796万805人）。内訳は、国内線が2620万3000人（2493万3150人）、国際線が419万2000人（302万7655人）。貨物量の目標値（国内・国際の合計）は20万7100トン。23年度の貨物量は14万3939トンで、内訳は国内線が13万6957トン、国際線が6983トンだった。

7空港の中で最も規模が大きい新千歳空港の24年度の旅客数の目標値（カッコ内は23年度実績）は2480万1000人（2292万6622人）。内訳は、国内線が2091万9000人（2003万1327人）、国際線が388万2000人（289万5295人）。貨物量の目標値（国内・国際の合計）は19万5300トン。23年度は13万2649トンで、内訳は国内線が12万5667トン、国際線が6983トンだった。

なお北海道エアポートは2020年1月に7空港の貨物施設や旅客ターミナルビルの運営を開始。20年6月に新千歳空港、20年10月に旭川空港の航空系事業（滑走路などの運営）を開始した。21年3月には稚内、釧路、函館、帯広、女満別空港の航空系事業に着手したことで、7空港の一括運営を全面的に開始した。